学校番号	３１７

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	詳説世界史Ｂ　（山川出版社）						
副教材等	グローバルワイド　最新　世界史図表（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・原始から現代までを通して、歴史の流れの大きな概観をつかむ。
・各時代に起きた各国・各地域の大きな出来事を、相互に関連づけながら理解する。
・世界史の学習を通して、世界の成り立ちを学び、日本人としてあるべき姿を考える。

2　学習の到達目標

・様々な資料を活用し、歴史的思考力を培うとともに判断力や表現力を育成する。
・過去から現代に至る時代の中で起こった出来事と、現代で起こっている（起こりつつある）出来事を照らし合わせながら、歴史的な視点から考察することが出来る能力を育成する。
・世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	古代から現代までの世界の歴史に関する関心を高め、意欲的に探求する態度を養い、それを通して世界の中での日本人のあるべき姿を考える。	各時代の概観を深く思考し、世界のさまざまな課題を歴史的観点から、過去にさかのぼって考察し、その過程や結果を適切に理解し、表現出来る。	古代から現代までの世界の歴史に関する資料に触れ、有用な情報を選択し、活用する。	原始から現代までの世界の歴史についての基本的な知識を身につけ、その相互の連を理解している。
評価方法	受講状況 提出物	受講状況 提出物 定期考査	受講状況 提出物 定期考査	受講状況 提出物 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期中間	世界の諸地域の古代文明　アジア世界の形成　イスラームとヨーロッパ世界の形成・発展　内陸アジア・東アジア世界の展開	・オリエントと地中海世界 ・アジア・アメリカの古代文明 ・内陸アジア・東アジア世界の形成	○ ○ ○	 ○ ○	○	 ○	a 世界の諸地域の古代文明を考察し、歴史的関心を高めようとしている。 b 古代文明の起源について思考し、その違いと特徴を自身で表現することが出来る。 c 古代世界と文明について関連する諸資料を収集し、自分なりの視点で選択して系統的にまとめて要約し、整理している。 d アジア世界について、内陸部と東部の地域の国家形成と相互の関係性について理解を深める。	出欠状況および受講状況の確認 質疑応答等 提出物 定期考査
1学期期末		・イスラーム世界の形成と発展 ・ヨーロッパ世界の形成と発展 ・内陸アジア世界の展開 ・東アジア世界の展開	○ ○ ○	○ ○	○	○	a イスラーム教の特質やイスラーム帝国の統治制度、トルコ人のイスラーム化について，関心を持って学習しようとしている。 b イスラーム世界の東方への拡大と西方での変化を，アジアやヨーロッパの動向と関連づけて考え、表現する。また、東アジア諸国の独自の社会や文化の特色を，東アジア文化圏の統合力の変化という視点で考察し表現する。 c 教科書に掲載されている地勢図や諸民族の移動図などを適切に活用している。 d ヨーロッパ封建社会の変化，中世の都市における経済発展，諸国の王による中央集権化の過程に関する基本的な知識を身につけている。	出欠状況および受講状況の確認 質疑応答等 提出物 定期考査

2学期中間	アジア諸地域の繁栄　近世ヨーロッパ世界の形成と展開	・アジア諸地域の繁栄 ・近世ヨーロッパ世界の形成 ・近世ヨーロッパ世界の展開	○	○	○	○	a 新航路の開拓事業や侵略活動とそれに伴うアメリカ先住民社会の変容などに関して，意欲的に学習しようとしている。 b 17～18 世紀のヨーロッパ諸国の経済活動と海外進出を，重商主義と関連づけて考察し表現する。 c 中世から近世にいたる社会観・宗教観の変化を理解するため、ルネサンス期の著作を資料として適切に活用している。 d オスマン帝国などのイスラーム帝国の皇帝権や官僚体制，ヨーロッパ世界との関わりなどに関する基本的知識を身につけている。	出欠状況および受講状況の確認 質疑応答等 提出物 定期考査
2学期期末	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立　欧米近代国民国家の発展　アジア諸地域の動揺	・近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 ・欧米における近代国民国家の発展 ・アジア諸地域の動揺	○	○	○	○	a産業革命の世界史的背景，技術革新について，関心を持って学習しようとしている。 b インド大反乱の社会的背景を，それまでのヨーロッパ勢力による外圧と国内情勢の双方の視点から考察し表現する。 c 教科書に掲載されているウィーン会議後のヨーロッパ諸国の地図や図版を適切に活用している。 d フランス革命の経緯とその延長線上に登場する皇帝ナポレオンの政策との関連性に関する基本的な知識を身につけている。	出欠状況および受講状況の確認 質疑応答等 提出物 定期考査

3学期	帝国主義とアジアの民族運動　二つの世界大戦　冷戦と第三世界の独立　現在の世界	・帝国主義とアジアの民族運動 ・二つの世界大戦 ・冷戦と第三世界の独立 ・現在の世界	 ○ ○	 ○	○ 	 ○ 	a 戦間期の協調外交や平和に対する取り組みが次の大戦を防ぐことにつながらなかった理由について，関心を持って学習しようとしている。 b 湾岸戦争や対テロ戦争における国際連合の動きの違いを比較し、新たな国際秩序のあり方について考察し，表現する。 c 世界分割の進行に関して、教科書に掲載されている諸地域の地図を適切に活用している。 d 冷戦体制下の東西対立とその後の「雪どけ」、緊張緩和に至る経緯について、基本的な知識を身につけている。	出欠状況および受講状況の確認 質疑応答等 提出物 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。